

# 南アルプス市立小笠原小学校学校関係者評価書

令和元年9月6日(金)  
学校関係者評価委員会作成

## 第一回 学校関係者評価委員会

実施日：令和元年9月2日(月)午後7時00分～

会 場：小笠原小学校校長室

評価者：学校関係者評価委員

常盤 幾男 (小笠原区長, 学校評議員)  
新津 岳 (元市教委教育部長・教育行政)  
杉本 健 (子どもを守る会会長, 学校評議員)  
小林まち子 (主任児童委員, 学校評議員)  
宮野 和人 (PTA会長)  
上田 直人 (校長) 河村 徳仁 (教頭) 松田 晃一 (主幹教諭)

### 内 容

- 1 学校側から提案の内容
  - ①学校関係者評価の趣旨
  - ②本年度の学校経営方針並びに現状
  - ③学校評価の方法について
  - ④評価の全体的な傾向について
  - ⑤児童アンケートの内容と結果について
  - ⑥保護者アンケートの内容と結果について
  - ⑦教職員自己評価シートの内容と結果について
  - ⑧まとめ…学校評価から見られる成果や課題, ならびに改善策について
- 2 協議された主な内容
  - ①学校評価への全体評価について
  - ②項目ごとの評価・達成状況・改善策について
  - ③今後の改善策について

## 《学校関係者評価書》

### I 全体評価

全校児童及び保護者のアンケートの集計結果と教職員の自己評価シートの集計結果から出した平均点数は、保護者アンケートの一項目を除く全ての項目でプラス評価でのあり、小笠原小学校の教育活動が保護者の理解や協力を得ながら効果的に進められていると言える。

### II 学校関係者評価委員会の中で出された主な意見

#### 【児童アンケートについて】

- ① 授業が分かる・できることが学校教育の基本。分かる・できる授業の創造に向けて、先生方が子どもと同じ目線で頑張っている。本当に素晴らしい。
- ② マイナス評価で普遍的なもの(毎年出されているもの)は放っておけない。「考えや意見を発表で

きますか」があげられるが、日本人の特性として弱いのだろうか？意見の対立は感情的に戦かわせるのではない。意見の対立でなく意見を受け入れることも大切だ。意見を言えるように今後の取り組みで改善して行ってほしい。

- ③ 見守り等で立っていてもよくあいさつするし、最近、小笠原小学校の子ども達が明るくなってきた。

#### 【保護者アンケートについて】

- ① 家で本を読めない子ども達がたくさんいる。親と司書と協力して運動の展開をお願いしたい。
- ② 悩みを持っている保護者が多いということだが、教育で悩みがあるのは当然。どんな悩みを持っているか探って、その解消に向けて、外部機関と協力しながら対処できると良いと思う。
- ③ アンケート分析を公表し保護者と共有することによって親も安心すると思う。是非公表してほしい。
- ④ 学校ではいろいろな取り組み行われているが、その成果を保護者と常に共有することが大切だと思う。共有することによって、保護者は学校に対して協力的になると思う。
- ⑤ 先生方は児童の悪いところにもすぐに対応してくれている。先生方の日々の努力も感じる。保護者として大変感謝している。
- ⑥ マイナス傾向の項目等について、悪いところがあればPTAとしても協力して取り組みを行い、良い方向に向けていきたい。
- ⑦ 先生方も日々悩みながら成長していると感じる。先生方が感じている悩みや課題について、保護者にも意見を聞いてみれば良いと思う。悩みや課題を共有して子ども達をより良い方向に向けられれば良いと思う。
- ⑧ 家庭学習をすればよくなると思うが、今の母親たちが忙しく、帰って食事の準備をして、学業まで手が回らない。父親が早く帰ってくればいいが……。核家族化が問題なのではないだろうか。

#### 【教職員自己評価について】

- ① 学校はグランドデザインを示して、その具現化に向けて学校運営を行っていく。小笠原小学校はその仕組みができており、先生方が日々努力してる姿も見られる。先生方の日々の努力に感謝する。
- ② 本年度、学校便りが回覧板で地域にまわっている。地域にも小笠原小学校の様子が良く分かるようになった。学校が地域により身近なものになってきている。また、保護者には学年便りが配られ、学校の様子が伝えられている。教職員・保護者・地域の関わりを持たせながら、グランドデザインの具現化に向けて日々とりくんでいることが素晴らしい。
- ③ 教職員の「個に配慮した効果的な指導に取り組んでいる」「知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力の育成に努めている」については、少人数で学習すれば良い結果が出ると思う。知事が示した25人学級の実現を期待したい。
- ④ PTA活動に参加する保護者が少ないということだが、部会や講演会に残っていく手間を惜んでいる。講演の中に、子どもの教育の悩みの糸口があるかもしれない。残っていけば担任と話ができる。役員をするだけでも先生方と繋がる。積極的にできればいいのと思う。

#### 【その他】

- ① 先生方が頑張っている中で不祥事がおきると、人はそういう目で見ってしまう。子ども達も頑張っている。先生方も頑張っているのに残念だ。
- ② 表の見方として、「授業を分かりやすく教えてくれている。」はプラス評価の得点が高いが、「学校

の授業は楽しいですか」の平均点は高いが、マイナス回答が多くなっている。授業が分かると楽しいと思うが……。複合的に分析する必要がある。

### Ⅲ今後の改善策・重点課題について

○教師に対する信頼感をさらに高めるために、今まで行ってきた継続的な校内研究をさらに深め、よりわかりやすい授業づくりのために、新学習指導要領の「主体的・対話的・深い学び」の視点を基本とした「学び合い」の授業スタイルの定着、基礎・基本の定着と思考力・判断力・表現力の育成を図る。また家庭と連携して学習習慣・読書習慣の定着化に力を入れていく。

- ・「学び合い」の授業について研究（主体的・対話的・深い学びの実践化）
- ・個別指導による基礎基本の定着
- ・「こころをそろえる活動」の定着、学習規律「小笠原スタンダード」の定着
- ・家庭と連携した家庭学習・家庭読書の習慣化（家庭学習カード・家読カードを通しての連携）

○地域や家庭との連携をさらに深め、子ども達の育ちに積極的に関わっていく。

- ・学校と保護者が連絡を密にとり、連携・協力して、一人一人の子どもの育ちに関わっていく。
- ・学校だよりや学年だよりなどで学校の教育活動を積極的に発信し、保護者や地域の理解・協力が得られるようにする。
- ・PTA活動・ボランティア活動などいろいろな協力活動を通して学校と保護者・地域の距離を縮め、子どもの育ちを共に考えていく関係づくりを進める。